

「大分市こどもの読書活動推進計画（第五次）（案）」の市民意見公募において
寄せられた意見等の概要とそれに対する本市の考え方（案）

意見提出期間：令和7年11月12日（水）～12月12日（金）

意見提出者数：2名

意見件数：2件

質問 番号	意見概要	意見に対する本市の考え方
①	<p>図書館の子ども向けの絵本のボードブックは、表紙カバーをすべて外してほしい。カバーのはりつけられていない部分をこどもが引っ張って破きそうで、借りるのを躊躇してしまう。ボードブックタイプは、カバーの絵を楽しむことよりも破られないことを優先した方がよいのではないか。</p> <p>※ボードブック…全ページが厚紙でできた本のこと。幼い読者にもページがめくりやすい頑丈な造りの本。</p>	<p>大分市民図書館は、公共図書館として、幅広い世代の様々な方々に蔵書をご利用していただくことを目的といたしております。</p> <p>所蔵する図書につきましては、表紙カバー等も含め作品の一部と考えており、表紙カバーの装着等の装備を行う際にも、できる限り、入荷時の図書の状態を保持するように努めております。</p> <p>こうしたことから、絵本のボードブックにつきましても、表紙カバーも本の内容とあわせて楽しんでいただけるように装備を行うとともに、絵本本体の見返し部分や表紙カバーのそで部分等にある情報や絵につきましても、作品理解の一助として装備を行い、利用者の皆様にご提供いたしております。</p> <p>いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>
②	<p>読書は、多様な他者の考えに触れ、世界を広げることができるという点で、あらゆる教育活動の基盤となる。</p> <p>しかし、現代の社会では、子どもだけでなく大人の読書習慣の減退が目立つ。親世代が読書に親しむ時間が少なくなっており、結果として家庭内で本に触れる機会そのものが減っていると感じる。子どもが自然に読書へ向かうには、身近な大人が本を読む姿を見せることが最も効果的である。そのため、第五次計画では「保護者への啓発」をより一層重視し、単に読書の大切さを伝えるだけでなく、読書を生活の一部に取り入れる具体的な方法を提案してはどうか。</p> <p>こどもの読書習慣を守るために、教育の現場だけでなく、社会全体で読書を価値ある行為として再認識する取り組みが求められている。</p>	<p>幼少期からの家庭での読書活動は、こどもの読書習慣の形成の基本となることから、本市においても保護者への啓発は重要と考えております。</p> <p>そのため、第五次計画では、より多くの保護者に啓発が図れるようアプリやホームページ等の活用を考えております。また、読書を生活の一部に取り入れる具体的な方法といたしましては、市民図書館における電子書籍も活用した家読（うちどく）の推進や、地区公民館を中心とした施設にて開催する保護者とこどもを対象とした教室・講座やイベントの実施を考えております。</p> <p>社会全体でこどもの読書活動を推進するため、地域の読み聞かせ団体と連携した事業に取り組み、地域におけるこどもの読書活動の推進にも努めてまいります。</p>